

誠を誓っている』と言うこと。その彼らを選んだのはアメリカ国民なので、下手したら、アメリカ国民を見下すことになるんじゃないか。これは政治の判断をしていく時に良くないと思いますよ」話を聞きながら、私もそうだなと思いました。

トランプ大統領は、よく MAGA 運動と言います。Make America Great Again. 偉大なるアメリカをもう一度つくる。これが彼のスローガンですが、最初に言ったのはレーガン大統領です。そのまま取ったんですね。偉大なアメリカを考えていった時、全然グレートになれなかった人たちが、トランプ大統領の支持基盤なんです。

グレートになれなかった人たちとはどんな人たちか。かつては、自動車産業も産業機械の産業も世界最先端だったんですが、安い製品が中国からどんどん入ってきて、製造業はすっかり下火になり、ラストベルトと言われました。ラストベルトの人たちは、アメリカの景気が最高にいいと言っても、そのおこぼれにあずかれず、生きる気力がなくて、フェンタニルという鎮痛剤—末期癌の疼痛を取るために使う薬を違法薬物として使ってフラフラになってる。職を変えようと思っても、不法移民が 1200 万人以上いて、非常に安い労働力になっている。めちゃくちゃ買いたたかれるけど、本国に送ればドルはペソに大化けしますからね。

ということで、アメリカがグレートになれないようにしている理由は違法薬物と非合法移民だから、それらをアメリカに送り込んでいるカナダとメキシコに関税を掛ける。関税を掛けられたくないなら、違法薬物と不法移民をアメリカに出さないように、もっと国をコントロールしろ、ということなんですね。フェンタニルの原料を大量に送り込んでいるのが中国ですよ。

アメリカは今、どのようにしたいのか。アメリカファーストだと。どこの国の政治家でも、自国ファーストですよ。 「トランプ大統領怖い。おかしい」じゃなくて、彼の頭の中を考えたら、次にどう付き合っていけばいいか分かるじゃないですか。アメリカファーストでやっていくのは、日本にとって必ずしも悪いことばかりじゃないと分かるんだと。続きは天満橋バイブル倶楽部でお話したいと思いますが、すごく勉強になりました。

この方も言われてましたが、トランプはペンシルベニアで演説した時に銃撃されましたね。パッと横向いた時に弾丸の通過点がずれたので、耳のところをカーンとかすって命拾いしました。あれはナノ秒の誤差だったそうです。ナノ秒。くる病とかの病気のことじゃないですよ。コンマ1秒ずれててもダメ。だから、就任演説の時、「私は神様にこの命を救っていただいた」と言いました。その時めちゃくちゃ熱狂したのは、彼の岩盤支持層が福音派だからです。

アメリカのクリスチャンは大きく分けて、主流派と福音派がいます。主流派は基本的にエリートのクリスチャンで、聖書をまともに信じていない人たち。イエスの奇跡やモーセの奇跡を「そんなの実際に起こるわけがない」と、全部合理

的な説明に置き換える。

福音派は文字どおり、字義どおり、書いてあることをそのまま全部信じる。

実は私、福音派なんですよ。「えっ！」と言わんといてください。

福音派の世界観は終末論なんです。この世界観について、**ダニエル書 1 章から 12 章**までずっとやってきたんですが、今日とうとう最終回で、なんとなくちょっと寂しい。もうこのダニエル書なくなるのか…。でも、ほかにもたくさんあるで。

ダニエル書最後のテーマは**人類歴史のゴールはこれだ**。艱難時代の次に来るものはこれだ！というところで終わるんですが、素晴らしい着地ですよ。

前回はそうでしたが今日も、ある意味で予備知識がないとわけ分からないので、最初に世界のこれからの流れを少し紹介します。

人類は艱難時代という未曾有の、人類歴史上もっとも恐ろしく、凄まじい時代に入ったんで行きつつあります。艱難時代は、反キリストという独裁者とイスラエルが、7年間の安全保障条約を結んだ当日からカウントダウンが始まります。

全部で 2520 日、ユダヤ暦に換算して 7 年間続くので 7 年間の艱難時代。

この 7 年間に、でかい戦争が 3 回起きます。

1 回目の戦争は**黙示録 6 章**。赤い馬に乗った者が出てきますが、これが戦争。

2 回目の戦争はちょうど中間期。今 193 か国が国連に加盟してますが 10 か国になる。そのうちの 3 か国が反キリストと戦い、敗北して 7 か国になります。

3 回目の最後の戦争は艱難時代の最終日。地上再臨のキリストと反キリスト軍の戦争で、ハルマゲドン戦争と言われます。ハルマゲドン戦争はハルマゲドンで行う戦争ではなく、ハルマゲドンは反キリスト軍の集合場所で、戦場はエルサレムです。

この 3 つの戦争の中で、特に 2 番目の戦争を前回解説しました。

7 年間は前半 1260 日と後半 1260 日に分けられます。

前半 1260 日だけで世界人口が半分になります。もし今起こるなら、世界人口 80 億が、たった 3 年半で 40 億人が死ぬという恐ろしい時代です。

後半 1260 日は前半よりもっと恐ろしい。私は艱難時代の後半を大患難時代と言ってるんですが、だれにとっても、どの民族にとっても恐ろしい時代です。

特にユダヤ民族にとって恐ろしい時代。ここで、ユダヤ民族の 2/3 が滅びます。

今日見る**ダニエル書 12 章**は、前半 1260 日経ったちょうど中間時点から 1335 日までのことで、8 つのポイントをざっくりお話しします。

1) 7 年間で起こること

今日の闇の主人公が反キリストですが、彼についてこう書いてあります。

ダニエル書 11 章

36 この王は思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高く上げて大いなるものとし、神々の神に向かって驚くべきことを語る。

この王は思いのままにふるまい、何でもやってのける。

今世界に何人が独裁者がいますね。ロシアのプーチン・中国の習近平・北朝鮮の金正恩。安倍さんの側近の方が、「安倍さんはどんな独裁者に対しても、絶対に悪い言葉を使わなかった。悪口を言わなかった」と言っていました。聞きながら胸が痛かった。ここで散々こき下ろしてるんでね。でも、私は政治家ちゃうし。

こういう独裁者は思いのままに振る舞っていますが、それができるのは自分の国の中だけで、全世界で思いのままに振る舞えませんよね。一步国の外に出たら、思いのままにできないですよ。世界のどこに行っても思いのままに振る舞える、ほぼほぼ全能者に近いような権力と力を持っているのが反キリストです。なぜそんなすごい力を持っているのか。

38 その代わりに彼は砦の神をあがめ…彼の先祖たちが知らなかった神をあがめる。

砦は軍事基地。砦の神は戦の神・争いの神・悪魔／サタンです。悪魔の力を使って、どんな国のどんな軍事的要塞も完璧にひっくり返す。軍事兵器がどんどん進歩して、人工知能によって次々にいろんな新兵器が出てきますが、反キリストが使う武器は霊的な武器なんです。人間が造った武器は人間の新兵器で打ち破られるけど、彼は霊的な武器、2億の悪霊を使って、思いのままに世界をコントロールする。だれも抗えません。

39 (異邦人から出る) 彼 (反キリスト) は異国の神 (サタン) の助けによって城壁のある砦 (エルサレム) を取り、彼が認める者には栄誉を増し加え、多くのものを治めさせて、代価として国土を分け与える。

異国の神は彼の先祖たちが知らなかった神、拝んでいなかった神なのでサタンです。反キリストの先祖はヨーロッパ人で、ユダヤ人ではありません。サタンによるだれも反対できない強力なパワーを使って、どこに兵力を集中させ、攻撃してくるのかというとユダヤ人です。再建されたイスラエルに、恐るべき憎悪で攻め込んで来る。イスラエルのユダヤ人たちを滅ぼしに来るのが反キリストです。

なぜそんなことをするのか。キリストの地上再臨には条件があるんです。ユダヤ人が民族的スケールで、「イエスよ、あなたはメシアでした」と悔い改めてメシアを呼び求める時に、地上再臨が起こるんですね。ユダヤ人が全滅すればその条件は満たせないんで、キリストは地上再臨できない。だから攻め込んで来るという背景があることを考えて、12章に行きます。

ダニエル書 12章

1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

ここに3つの時が出てきました。その時・苦難の時・しかしその時。その時は艱難時代のど真ん中。その時、ミカエルが立ち上がる。

ミカエルは御使いのかしらで、イスラエルの守護天使です。
神からイスラエル防衛を任務として与えられているミカエルが立ち上がる。
立ち上がるはヘブライ語でヤモッド。これは今の IDF / イスラエル防衛軍も使う軍
事用語で、戦争開始・突撃開始の言葉なんです。軍事用語。
ミカエルが立ち上がるというのは、集会が終わったら椅子から立ち上がるというの
とは全然違う。いよいよ霊の戦いに立ち上がるという意味です。
誰と戦おうとしているのか。悪魔と戦うんです。この箇所を黙示録で見ましょう。

黙示録 12 章

7-8 さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とそ
の使いたちも戦ったが、勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくな
った。

9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、
全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落
とされた。

艱難時代のちょうど中間期に、天で霊の戦いが起こります。
ミカエルとその軍勢 VS サタンと手下の軍勢。

悪魔とかサタン。サタンは敵対する者という意味です。
悪魔はギリシア語でディアポロス。直訳すると、中傷する者。悪口言う者。
悪魔は、人に対して神を中傷してるんです。
「神？そんなのいないよ」「創造？いや進化やし」「罪を犯した？もう赦しはない
から」「悔い改めた？いや、何回も同じ過ちやってるし、もう救いはないぞ」
つまり、神の本当の姿ではなく、「神はあなたのことなんか何とも思ってない。あ
なたは神に愛されてない」と、歪んだひねくれた解釈で、人に神のことを中傷する。
もし「私はもう一貫の終わりだ。もうダメだ」と思うなら、それは悪魔の言葉です。
ぜひ集会にいらして、クリスチャンたちに相談してください。

同時に、神に人を中傷するんです。「神よ、こんな出来損ないに憐れみを懸けて、
どうするんですか！なんぼやっても恩知らずですよ。彼らがあなたを『神よ、救い
主よ』とあがめてるのは打算ですよ。あなたがよくしてくださるから、それをなん
とかもらおうと思って、へいこらしてるだけですよ」ヨブの悪口を言ったように。

人に神のことを中傷し、神に人のことを中傷して、嘘ばかり言ってる。
それが悪魔です。その悪魔がこの時の霊の戦いで、全世界を惑わす者が地に投げ落
とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。どこから？天から。

12a それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。

なので天は、厄介者がいなくなったので喜んでるんです。
悪魔になり下がった後も実に厄介者で、嫌なことやトラブルばかり持ち込んでくる。
いつも神と人を中傷している。天の住民たちもほとんど嫌だったと思いますが、天

から投げ落とされたので、喜べ！もう、あいつおれへんぞ！

12bしかし、地と海はわざわざいだ。悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。

天はいいですよ、厄介者払いで。でも、悪魔が落ちてきたこの地上は悲惨ですよ。地と海はわざわざいだ。私は、地と海はいわゆる地球と海ではないと考えてるんです。地と海はわざわざいの意味は、地からは偽預言者という獣が出る。海からは反キリストという獣が出てくる。その意味で使っている地と海ではないかと私は考えてます。どちらでもいいですが。

悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。あと3年半しかない。ここで何もしないなら、3年半後にキリストの地上再臨が起こって、自分は滅ぼされる。

13 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子（メシア）を産んだ女（イスラエル／ユダヤ人）を追いかけた。

「ユダヤ人を全滅させたら、キリストが地上再臨する条件が満たされないから大丈夫だ」と思って、ユダヤ人を目の敵にします。

14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時（ひととき）と二時（ふたとき）と半時（はんとき）（3年半）の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

この時イスラエルにいたユダヤ人はみな、ヨルダンのペトラに避難します。それが起こるきっかけとなった中間期のことが、その時、ミカエルが立ち上がるということです。

ダニエル書 12 章

1b 国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。

苦難の時は3年半の期間のことだと思います。後半3年半の大艱難時代は、ユダヤ人の国が始まって以来、最も苦しい苦難です。ナチスヒトラー／ホロコーストの時に全ユダヤ人の1/3が滅ぼされましたが、この時には2/3が滅ぼされるんです。考えるだけで恐ろしい。

1c しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

しかしその時。反キリストと悪魔の攻撃が完全に止むその時。それは地上再臨の時。7年間の艱難時代の最後の時です。

①その時は中間の日。②苦難の時は3年半の期間。

③その時は地上再臨の当日。その時、イエスを信じているユダヤ人はみな救われる。このように、7年間で起こることを、この一節にまとめたんですね。

2) 死者の復活

2a ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。

ちりの大地の中に眠っている。人間は火葬でも土葬でも、葬られて埋められたら、最終的に土に同化します。死ぬことを“土に還る”と言うじゃないですか。

塵の中で、土と完全に同化してしまっている。人間は、はじめは土でした。

塵で創られたんです。塵で創られて塵に還った。

肉も骨も皮膚も何もない人間が目を覚ます。目を覚ますというのは復活を意味してるんです。肉体の復活です。この復活は、艱難時代が終わった後に起こります。

2b ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。

新約聖書には永遠のいのちということばが頻繁に出てきますが、旧約聖書で最初に登場するのはこの箇所です。永遠のいのちにあずかるのは、ダビデ・エリヤ・モーセ・ダニエルなど、旧約時代に神を信じた人々。同時に、艱難時代の殉教者たち。彼らが復活します。クリスチャンについては後で言います。

永遠のいのちに、永遠の嫌悪に。復活には2種類あって、行き先が全然違います。メシアの救いを受け入れなかった人たちは、よみがえって最後の審判の座に立たされます。艱難時代が終わって75日後に千年王国が始まり、千年王国の最後に裁きのための復活があるんです。

ここではさらっと隣に書いてありますが、永遠のいのちにあずかる復活と、永遠の嫌悪にあずかる復活の間には、1000年間の隔たりがあります。

義人の復活は艱難時代の後ですが、裁きのための復活は千年王国の最後で、そこには1000年間の隔たりがあると考えてください。

3) キリストを受け入れた人、信仰による義人の報いについての教え

3 賢明な者たち (信じた人たち) は大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のようになる。

神の前に最も愚かなことは、神はないと思うことです。「愚かな者は心の中で『神はいない』と言っている。彼らの心は腐っている」と書いてありますが、賢い・愚かはIQのことではないんですね。人生における態度のことです。

創造主に対する賢明な態度は、「私は自分で自分を救うことができません。救い主を信頼します」ということです。

大空の輝きとは何か。エゼキエル書を見ます。エゼキエルはケバル川のほとりで神の啓示を受けた時、ケルビムに乗った神を見て圧倒されました。

小此木啓吾さんだったか、心理学の世界で有名な人。なんとかコンプレックスの。

彼が、エゼキエルは精神病を患ってたと言うんですよ。妄想の時に見る情景とよく似てると。そのジャンルで有名な人かもですが、聖書解釈の原則ムチャクチャや。車輪が回ってて、ぐちゃぐちな生き物がー。これは完全に妄想の世界に生きていると。エゼキエルが精神病者扱いされてる。

それをまた、聖書学者の山本七平が「面白い見方ですね」って。面白いわ。何言うてんねん。彼は無教会の息子でしょ。七平は七日目は安息日という平でしょ。確かに彼はイザヤ・ベンダサンというペンネームで、天才的な論評をたくさん書いてますが、聖書の信仰については読まない方がいいです。ほんとに近代批評なんですね。それは置いて。

エゼキエル書 1 章

22 生きもの（ケルビム）の頭上には、まばゆい水晶のような大空に似たものがあり、頭上高く広がっていた。

ケルブは神の座となっている最高位の御使いで、ケルブの複数形がケルビム。神の栄光を反映するこのケルビムは、まばゆい水晶のような輝いている大空をまとっている。これは、まばゆい水晶のような大空に似たもので、大空ではありません。形容のために大空を用いてるんです。つまり、大空の輝きは肉眼で見ることができ、神の栄光で、シェキナーと言います。雲の柱も火の柱もシェキナーです。賢明な人たちは最高位の御使いのように、神の栄光／シェキナーを反映するような存在になる。

皆さん、前立腺がどうか、ほうれい線がどうか、毛が抜けて大変とか、あるじゃないですか。神様はもっと素晴らしいもので飾ってくださると言うんですね。

ダニエル書 12 章

3b 多くの者を義に導いた者（144000 人のユダヤ人）は、世々限りなく、星のようになる。

144000 人のユダヤ人は 7 年間の艱難時代に殉教せず、世界中に出て行って、日本にも来てくれるんです。艱難時代にキリストの福音を宣べ伝えて、多くの人をキリストに導くために用いられます。彼らは星のようになる。この星もシェキナーです。イエスがお生まれになった時、その星を見たので、東方の博士たちが礼拝するためにやって来たというのがあるでしょ。あの星は金星でも木星でもない。太陽系の星がイエスがいる所までシューって、そんな不自然な動きをするわけない。あの星もシェキナーです。

彼らは殉教してよみがえったのではなく、宣教の働きに神が最高の報いを与えて、星のようなシェキナーをまとわせるんですね。それを聞きながら、ダニエルは嬉しかったと思いますね。

4) 4 ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書（10 章 11 章 12 章）を封じておけ。多くの者（ユダヤ人）は知識を増そうと捜し回る。

ここは後でもう一度触れるので、あっさり行きます。
この書を封じておけ。封じるは保存するという意味だそうです。
この書はダニエル書全体というよりも、10章11章12章のことだと思います。
ダニエル書前半は歴史のことで、そんなに難解ではありません。読めば分かります。
封じられているのではなく、読めばだれでも分かる本です。
でも、特にダニエル自身が分からないと悩んでいる10章から12章は、預言の一つの固まりなんですね。それは艱難時代についての詳しい預言です。
この10章から12章までは、きちんと記録して保存しておきなさい。

多くの者は知識を増そうと捜し回る。終末時代にはいろいろな人工知能やハイテクノロジーの知識がどんどん増える、ということじゃなくて、終末時代の知識を増そうとするんです。

ダービーという人の訳は「多くの者は勤勉に調査するだろう」

トレゲネスという人の訳は「多くの者はこの本を詳しく調べるだろう。調べるために捜し回るだろう」

つまり、終末時代になればなるほど、「これから一体どうなるのか？」と考えた時、まずダニエル書をひも解くんです。なぜ？多くの者は直接的にはユダヤ人なので、自分たちが知っている終末時代のことを詳しく書いてあるダニエル書に向かうんですね。黙示録は新約聖書なので、ユダヤ人は読みません。タブーですよ。

捜し回る。これは未完了形です。ヘブライ語の時制は、完了形と未完了形（未完了形の中には未来形も入ってます）の2種類しかありません。

将来「本当に終わりが来た！」とよく分かる時代が来ますね。艱難時代ですよ。艱難時代に入って、「これからどうなるんだ？ダニエル書読もう！」と捜し回る。詳しく調べようとする。でも、これだけでは分かりません。それは後で言います。

5) 艱難時代の目的

5-6 私ダニエルが見ていると、見よ、二人の人が立っていた。一人は川（ユーフラテス川）のこちら岸に、もう一人は川の向こう岸にいた。その一人が、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人に言った。「この不思議なことは、いつになると終わるのですか。」

3人の御使いが出てきます。ユーフラテス川のこちら岸に一人、向こう岸に一人。第3の人は川の水の上に立っている。水の上を歩いた方イエス・キリスト。
でも、この人は受肉前のイエスではありません。彼は既に10章に出てきていて、非常に位の高い御使いだけど、ミカエルに助けてもらった必要がありました。
彼は受肉前の御子イエスではなく御使いです。

こちら側かあちら側かのどちらかの御使いが、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人に言った。質問しました。「この不思議なこと（艱難時代後半3年半の大艱難時代）は、いつになると終わるのですか」

御使いも知らないことがあるんですね。でも、下位の御使いが知らないことを、より上位の御使いは知っている。そういう図式です。学ぶために、御使いは質問して

るんですね。これ見做ったらいいと思う。分からなかったら聞く。

7すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人が語るのを聞いた。彼はその右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方にかけて誓った。「それは、一時と二時と半時（3年半）である。聖なる民（ユダヤ人）の力を打ち砕くことが終わるとき、これらすべてのことが成就する。」

「この恐ろしいことはいつ終わるんですか？」「3年半で終わる」
右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方にかけて誓った。普通は片手を上げて誓います。両手を上げて誓うのは、非常に厳粛なことだからです。

聖なる民（ユダヤ人）の力を打ち砕くことが終わるとき、これらすべてのことが成就する。これが艱難時代の目的です。

力はいい意味ではなく、聖なる民／ユダヤ人が誇っている力・自己義認の力・頑なさ・「メシアなんか要らない」という頑固さ。それを打ち砕くのに3年半かかる。その3年半を通して、「我々には救い主が必要だ」と打ち砕かれるために、すなわち、ユダヤ人の霊的回復のために艱難時代があるんです。

去年、ユダヤ人でイエスを信じているジョエル・ローゼンバーグの講演を聞きに行きました。イギリスでユダヤ人伝道をしている人です。良かったですよ。でも、会場には12-13人くらい。私はもう申し訳なかった。主催者じゃないけど、4人はこの集会の人。これ行けへんかったら8人。その半分くらいは主催者だから「えー！」みたいな。イギリスからやって来て、バーンと会場に入ったら、広い会場に豆まきみたいにパラパラと。これがいい内容で、一生懸命メモしました。

イギリスで、ユダヤ人にこそ福音が必要なんだとメッセージした時、聞いてる間中、めっちゃくちゃ怒っている女の人がいたと言うんです。

キリスト教一派の聖公会の女性司祭。もうイライラして「何言うてんねん、この人は！」みたいにギーと怒って。メッセージが終わるや否やバババツと来た。

「あなた、なんてこと教えるんですか！」「なんでですか？ユダヤ人こそ福音が必要でしょ」「ユダヤ人は福音なしで救われてるの！アブラハム契約で、アブラハムが約束の地に行ったら、その子孫は天の星のようになる。ユダヤ人はアブラハムの子孫というだけで、既に救われてるの！ユダヤ人にイエスを信じなさいと言うのは、反ユダヤ主義なのよ！」

そういう人多いんですよ。福音を語らせないように用いられているのがクリスチャンで、どう思いますか？

イエスは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。

わたしを通してでなければ、だれも父のもとに行くことはできません」

誰に言ったんですか？異邦人にですか？いいえ。ユダヤ人に言ったんです。

ユダヤ人に向かって「わたしを通してでなければ、だれも父のもとに帰ることはできない」と言われたんです。異邦人の女性司祭が言ったように、聖書解釈を間違うように間違うようにと、目に見えない力／悪魔の力が働いていると思いますね。

また、多くのユダヤ人ラビたちは、「我々はアブラハムの子孫で、ユダヤ人として生まれていることで、既に救われている。イエスがなぜ救い主なのか！」と。私はイエスこそユダヤ人の救い主だということを、今、本に書いてるんです。それをユダヤ人に渡すの、すごいドキドキするんですよ。今まで築き上げてきた友情が、これで壊れるんちゃうかと思ってね。日本語ができるユダヤ人たち。タイミングを見て渡したいと思います。

ある意味、選民としてのプライドですよ。それを打ち砕くのに3年半。この3年半の中で、「なぜ我々はうまくいかないんだ？なぜ我々はこんなに追い詰められているのか？」そして、彼らは徐々に考えを変えていく。完全に打ち砕かれて変わるのに、3年半の期間が必要だと説明しているんです。

6) 質問タイム

8a 私はこれを聞いたが、理解することができなかった。

理解できないことを書き留めるって、すごいと思いませんか？分からへんのに、こんなに精密に書けるって、この時ダニエルは80歳くらいなんですよ。どんな80歳や。正直に「私はこれを聞いたが、理解することができなかった」

8b-9 そこで私は尋ねた。「わが主よ、この（艱難時代の）終わりはどうなるのでしょうか。」彼は言った。「ダニエルよ、行け。このことばは終わりの時まで秘められ、封じられているからだ。」

正直に知りたいと思って聞いた時、「行け」言うて、答えてくれへんねん。皆さん、どうしても知りたいことがあって先生に聞いた時に、「行け」言われたら、「えー！無視ですかっ」追い払われてるみたい。そういう意味じゃないんです。なぜ質問に答えずに「行け」と言ったのか。この終わりはダニエルに既に説明してるんです。ダニエル書7章で、ダニエルは艱難時代の終わりがどうなるかを幻で見て、書き留めてるんですよ。

ダニエル書7章で、ダニエルは一晩で4つの幻を見ます。その4番目の幻が13節。**13-14** 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は「年を経た方」のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

艱難時代が終わると始まる滅びることがない国。これがメシア的王国／千年王国。メシアが君臨して、全ての国民を平和のうちに治める時代が来る。それをダニエルは見たし、書いてるのに、「終わりはどうなるんですか」いや、もう説明したやん。なぜ質問したかという、ダニエルでも分からなかったんです。分からないことは書いてても残らないし、分からないんですよ。その分からないダニエルに、「あなたは自分の道を進みなさい」と勧めたんです。

これは信仰の奥義だと思うんですよ。分かったら初めて進めると思うかもしれませんが、分からなくても信じることができるんです。聖書を全部理解したら初めて前に進めるのではなく、分からなくても、「ダニエルよ、あなたの使命の道を行きなさい」行けば分かるさ。アントニオ猪木か。

信仰ってそういうもんですよね。私たちは、見たら信じる。でも聖書は、信じたら見えてくる。まず信頼して、そして、行ってみないと分からないんです。

進んでみて、初めて見える景色があるんですね。

私が今年励まされていることばは「**行って実を結び**」です。

行ってみる。やってみる。アクションを起こしてみる。アクションを起こす前に悶々とじーっとしてたら憂鬱になってくるというか、否定的な妄想の中に入って行って、どんどんしんどくなるんです。行ってみたら、思い煩っていたことが、こんな解決あったんやみたいなこと、よくあります。行ってみる。ダニエルよ、行け。

このことばは終わりの時まで秘められ、封じられているからだ。

終わりの時までまだまだあるあなたが、今これを聞いても分からないのは当然だ。

でも、分からなくても、今与えられている仕事に行きなさい。

10 多くの者は身を清めて白くし、そうして練られる。悪しき者どもは悪を行い、悪しき者どものだれも理解することがない。しかし、賢明な者（艱難時代のユダヤ人）たちは理解する。

ダニエルみたいな人でも分からないのに、なぜ賢明な者（艱難時代のユダヤ人）たちは理解するのか。封じられてないからです。

黙示 22 章

10 また私に言った。「この書の預言のことばを封じてはなりません。時が近いからです。」

これは黙示録が書き終わられる最終のところですよ。ダニエル書は「この書を封じておけ」終末時代ははるか先のことだから分からないんです。

でも、黙示録を書いた時点で「封じてはなりません。時が近いからです」

つまり、艱難時代に入らなくても、今の新約時代はそもそも終末時代なんですよ。

時が近いという時代に、私たちは生かされている。

だから、旧約時代の人たちが絶対に分からなかったことを、多くの研究者たちの学びを参考にして知ることができるんですね。

賢明な者（艱難時代のユダヤ人）たちは、なぜ悟ることができるのか。

ダニエル書だけでは分からない中で、ユダヤ人に福音を伝える人たちがいるんです。代表的なのは2人の預言者で、艱難時代の前半3年半、エルサレムで活動しました。ペトラにいるユダヤ人たちは、「そういえば、あの2人の預言者は黙示録を引用してたよな。ナザレのイエスがメシアだと言ってたよな。彼らは我々の目の前で携拳されたよな」

ダニエル書だけでは分からない。どうしても分かりたいということで、黙示録に移ると思います。

黙示録は誰が書いたのか。イエスが御使いを遣わして、パトモス島にいるヨハネに与えました。なので、黙示録を通して、イエスこそメシアであるという認識がどんどんできあがっていく。その素地ができあがっていく。賢明な者たちは悟る。聖書は人が救われるために書かれたんですね。

ダニエル書 12 章

11 常供のささげ物を取り払われ、荒らす忌まわしいもの（反キリストの偶像）が据えられる時から、千二百九十日がある。

これは終末までのカレンダーです。聖書で忌まわしいものは偶像を表します。この偶像が据えられるのは艱難時代の間時点。その時から千二百九十日がある。1290 日は後半 3 年半 + 30 日です。艱難時代が終わっても、1 か月間は反キリストの偶像が神殿の中にまだあるんですよ。

でも、あると言っても、この時エルサレムは戦場になっているので、ボロボロの状態です。よく共産主義が倒れた後で、レーニン像やスターリン像がぶち倒されて、あるんだけど惨めな状態。あんなにいばりくさっていたのに横倒しになって。それを完全撤去するのに、艱難時代が終わってから 30 日。

12 幸いなことよ。忍んで待ち、千三百三十五日に達する者は。

1335 日は後半 3 年半 + 75 日です。この 75 日の間にいろんなことが起こります。①義人の復活 ②千年王国で用いられる神殿の建設 ③ヨシャファテの谷で、羊とヤギのグループに分けられて異邦人の裁判。などなどいろんなことがあって、千年王国は艱難時代から 75 日目に始まるんですね。

13 あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。

あなたは終わりまで歩みだから、ダニエルには、この書を書き終えた後もまだ仕事があったようですね。それが終わったら休みに入れ。安らかに息を引き取って、神の懐に行く。そして、死んでゼロではなく、あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。義人の復活の時に、ダニエルも復活するんですね。こういう終わり方、いいですよええ。

最後に、義人の復活について。信じた人のよみがえりには 3 つあります。

- ①**キリストの復活**。これが起こったのは、キリストの十字架から 3 日後です。
- ②**教会／クリスチャンの復活**。これは携拳の時に起こります。携拳は今でも今日でも起こり得る。いつあるか分からない。でも、艱難時代の前であることは確かです。
- ③**旧約時代の聖徒と艱難時代の殉教者の復活**。これは艱難時代が終わった後。クリスチャンはいいものを待ってるんですね。いつか主が来てくださるという。

私は35歳で伝道者になりました。はじめは、招かれたところでメッセージ語っている最中に「信じてください！」でバタッと倒れたら、なんぼ気持ちええか。カッコイイと思ったんですけど、今はそんなん思いません。そんなんあったら、そこの集会に迷惑かかるじゃないですか。年齢とともにいろいろ分別がついて、いかに負担かけないようにとか、そんなことばかり考えてね。ところが世の中には、他人にどう思われるかとか迷惑かけるとかについて、全く無頓着の人もいるんですね。

ある方の高校時代に、A君というクラスメートがいました。すごく勉強できる子で、ストレートで京大。物知りというより頭がいい。なんだけど、高校3年間、誰も口きいたことがない。友達いない。友達ができると、その子のために時間使わないとダメじゃないですか。彼はそういうのが煩わしい。したいことがあるのに、友達と一緒に何かするとか、そんなことに人生を浪費するのはイヤ。だから、人とできるだけ関わらないようにしている。人と関わったら損するみたいに思っている。それを孤独とは全く思っていない。楽や。これが最高の生き方だと思ってる。だから、高校3年間一緒だったのに、1回も喋ったことがない。

高校3年の秋、その彼が突然自分のところに来て、「君は大器晩成型だ」と言って、静かに席に戻ったそうです。3年間で彼の口から出たのはそれだけ。なので、変人やなと思ったけど、よけい心に残った。後々社会人になって何回も挫折しそうな時、「あんな賢い奴が、俺は大器晩成型やと言うたから、ここで諦めるわけにはいかん。まだ大器晩成の“晩”まで行ってへんから、まだ希望がある」そんな励まされ方もあるんやなと思ったんですけど。

ダニエル書は人間が言った言葉ではなく、神が語ったことばですよ。神のことばは「あなたは終わりの時に復活して、メシア的王国に割り当てがある。あなたにはちゃんと報いがある」と約束しています。これが信仰者の人生ですよ。クリスチャンとは、これからいいことが始まるのを待っている人たちです。一番いいことはまだもらってない。一番いいのはこれからやって来る—と生きていく人たち。これ、いいですよ。ダニエル書は今日で終わりますが、ダニエルが信じた神をぜひ信じていただきたいと思います。最後までご清聴ありがとうございました。

☆*: .. 0 ...:*☆ ☆*: .. 0 ...:*☆ ☆*: .. 0 ...:*☆ ☆*: .. 0 ...:*☆ ☆*: .. 0 ...:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017